

2024年5月度の観察記録

カテゴリ : 2024年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2024-5-12

2024年5月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2024年5月12日(日) 9:30~12:00 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人20名, 子ども24名 天気: 曇り 雨の降り始めは午後になるとの予報でしたが、開始時刻には雨が近いことを知らせる空模様になっていました。観察会が終わる頃にはポツリポツリと落ちてきましたが、幸い大きな影響はありませんでした。 出発前の里山の家で、1人の参加者がクスノキの花を紹介した朝刊の切り抜きを持参したのを見たので、実際の花を観察しに行きました。クスノキの花はちょうど満開で、その開花の様子に加えてちぎった葉の香り確かめました。すぐそばではヨコヅナサシガメの成虫が歩いていました。同じ木にはキマダラカメムシも見つかりました。どちらも外来種のカメムシの仲間、ヨコヅナサシガメは幼虫で、キマダラカメムシは成虫で越冬するそうです。

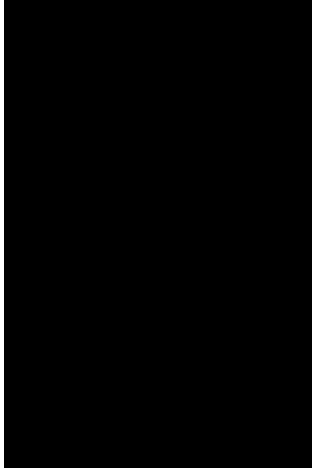




クスノキの花 ヨコツナサシガメ キマダラカメムシ

う昆虫がどこからか飛んで来ました。生きものに詳しい参加者から**ラクダムシ**と教えてもらいました。飛ぶ力があまり強くない様子で、ふわりと飛んでまたすぐ近くにとまりました。メスのようで長い産卵管を持っていました。ラクダムシは幼虫成虫ともに肉食性とのことでした。

続いてこの観察会ではおそらく初登場とい



ラクダムシ クワの実がなり始めていましたが、菌に侵されたものを多く見ました。今年はあまりたくさん食べられないかもしれません。クワの葉には**クワキジラミ**が発生していました。これを食べるハラグロオオテントウの幼虫を探しましたが見つからず、その代わりに複数の葉の裏に**カメムシの仲間の卵**が産みつけられているのを発見しました。

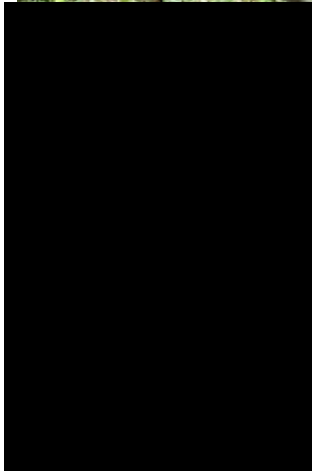


クワの実 クワキジラミ カメムシの仲間の卵 スイカズラが一斉に咲いていました。咲き始めの花は白く、のちに黄色く変化するそうです。この花の色からキンギンカと呼ばれるとのことでした。スイカズラにはニンドウ(忍冬)という別名もあり、寒い冬を枯れずに越すことからつけられたと言われているようです。





スイカズラ 中道を進み始めると、右手の木がすっかり元気をなくしてしおれているのに気づきました。この木はオオウラジロノキと言って、以前は東山の森の北限近くに大木がありましたが枯れてしまい、苗木をこの場所に移植したものです。なぜしおれてしまったのかは不明で、その後調べているとのこと。



しおれたオオウラジロノキ 中道沿田も花をつけていて、葉の緑や赤とのコントラストで白い花がひときわ美しく見えました。またツツジの葉に黄色いシミのようなものが無数についていて、病気のようにも、植物に詳しい参加者も以前には見たことがなく何かわからないと話していました。一方開花間近と思われるネジキのつぼみが並ぶようにも、間もなく可愛らしい花が見られるのが期待されました。

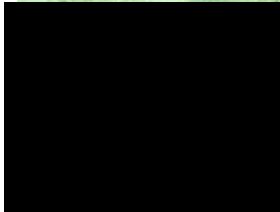


カナメモチ ツツジの病気？ ネジキのつぼみ 夏になると青い実が**腐りかか**りますが、この日は花を観察しました。手に取って調べることは憚られたため遠目で確認しましたが、花は五弁のようでした。



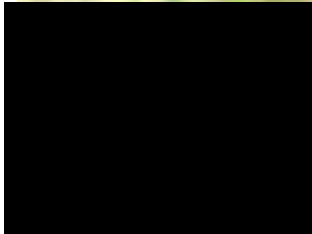


ヤマウルシの花 シュロギに花が咲いていました。花全体が黄色一色のものと、外側が白っぽいものが混在していました。花びらをちぎって食べてみると、「甘い」という感想が聞かれました。ジャガイモの苗が植えられて育っていました。その葉は食痕だらけで、よく見るとニジュウヤホシテントウの幼虫や成虫が多数見つかりました。



シュンギクの花 ニジュウヤホシテントウの幼虫
がたくさん花を咲かせていましたが、相変わらずキショウブも近くで咲いていて、花の時期に駆除しないとわからなくなると話す参加者がいました。サワフタギの葉を探すと、今日の目的の一つであったシロシタホタルガの幼虫も無事見つかりました。

湿地の方へ移動しました。

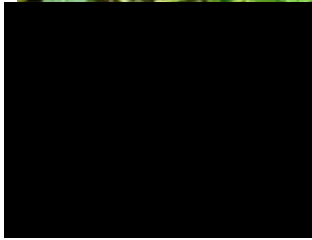


カキツバタ シロシタホタルガの幼虫

さとの道を通って戻り始めました。

花は満開の時期を迎え、コアオハナムグリを初め、たくさんの昆虫が訪れていました。道の脇のアップルミントの葉をちぎって子どもたちと一緒に香り確かめました。この日の最初にクスノキの葉の香りを嗅いだ時とは違って、「いい匂い！」という感想がすぐに出てきました。





ガマズミの花 アップルミント

先月はイモカタバミの根を観察しましたが、この日はイモカタバミとムラサキカタバミが近くで咲いているのを見てその花の違いを確かめました。観察した参加者は、イモカタバミとの最も大きな違いは花の中心部の色だと話していました。足元のザトウムシに気づいて見てみると、そのあたりには同じ種と思われるザトウムシがたくさん歩いていました。その中には赤いダニを体につけているものもいました。





ムラサキカタバミ ザトウムシ **ベニシダ**の種名の由来は孢子嚢が赤いことだと思っていましたが、若葉が赤いことからこの名がつけられたとのことでした。その若葉が勢いよく育っている場所で、参加者から「きれいだね」との声が上がりました。**タラノキ**は2回羽状複葉で、葉にも幹にも鋭いトゲがありました。夏に花が咲くそうです。最後の振り返りの場所では足元に**ニワゼキショウ**や**コメツブツメクサ**、**アメリカフウロ**など、小さな花を咲かせる植物が一面に広がっていました。



ベニシダ タラノキ ニワゼキショウ

この日は最初に「シロシタホタルガの幼虫を見に行く」と

いうテーマを決めてスタートしたため、一ヶ所に止まりがちな観察の列に時々声かけをして進み、普段は急ぎ足になる帰り道にさとの道を選んで余裕を持って戻ることができました。心配された雨の降り出しも観察会が終わるのを待っていてくれたかのようで、ゆったりとした時間が流れました

。

平和公園での観察項目：クスノキの花と葉、ダンゴムシ、ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシ、ヒメホシカメムシ、四つ葉のクローバー、ラクダムシ、モリチャバネゴキブリ、ゴミムシの仲間、ノイバラ、マサキ、クワの実、カメムシの仲間の卵、ムラサキカタバミ、アヤメ、クワキジラミ、クワハムシ、ショウブの花、イボタノキ、セグロセキレイ、アメンボ、しおれたオオウラジロノキ、カナメモチ、アブの仲間、ツツジの病気？、ヤマコウバシ、オオスズメバチの女王蜂、ネジキのつぼみ、カメムシの幼虫、ワカバゲモ、ミヤマガマズミ、ダイコンの実、レタス、イチゴの花、ヤマウルシの花、スイカズラ、シュンギクの花、ソシンロウバイの偽果、クヌギカメムシの幼虫、ニジュウヤホシテントウ、柳絮、ウバメガシ、ウメの実、カキツバタ、キショウブ、ワレモコウ、ナミテントウの蛹、シロシタホタルガの幼虫、ワラビ、ガマズミ、コアオハナムグリ、アップルミント、ドクダミ、チャノキ、チヂミザサ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、イモカタバミ、ムラサキカタバミ、サラサウツギ、ニシキギ、ゴマダラチョウ、ザトウムシ、アオスジアゲハ、マメガキ、ナンキンハゼ、ベニシダ、タラノキ、ヨコバイの仲間、ツルニチニチソウ、オヤブジラミ、ヘビイチゴ、イタドリ、ナナホシテントウ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、コメツブツメクサ、ヤマグワ、ズミ、アメリカフウロ、アオサギ、ツバメ、ウグイスの声

？